

Concept of family in patients with chronic disease living alone and its relationship to self-care ability, social support, and QOL

メタデータ	言語: eng 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38935

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



平成 26年 2月 19日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号 0527022021

氏名 土本 千春

論文審査員

主査(教授) 須釜 淳子

副査(教授) 北岡 和代

副査(教授) 稲垣 美智子

論文題名 Concept of family in patients with chronic disease living alone and its relationship to self-care ability, social support, and QOL

【論文内容の要旨】

本研究は、一人暮らしの慢性疾患患者が概念としてもつ“家族”に着眼し、質的研究による先行研究結果を基に量的に把握できる質問紙を作成した。また“家族”の概念の持ち方とセルフケア、ソーシャルサポート、患者のQOLとの関係を明らかにした。本研究の基盤となる先行研究では、一人暮らしの患者であっても“家族”を思い描き、生活の中に活用しているという仮説を見出し、家族の描き方が21項目であったためそれを“家族”の概念の原案とした。対象は1施設に通院している一人暮らしの慢性疾患患者85名に依頼し協力を得られた75名であった。方法は第1段階で原案作成し、内容妥当性を確認の上調査を実施した。分析方法は“家族”の概念の説明には主成分分析、その確認にクラスター分析、因子間の関係はSpearmanの順位相関係数、“家族”の概念とQOLの関係は重回帰分析(ステップワイズ法)を用いた。

その結果、一人暮らしの慢性疾患患者の“家族”の概念は14項目で、2つの主成分により累積寄与率47.8%説明可能であることが導き出された。第1主成分は8項目で「一人での療養生活に覚悟や距離を感じる存在である家族」と命名される因子であり、第2主成分は4項目で「何かの時に想う抒情的な存在の家族」と命名される因子であった。セルフケア、ソーシャルサポート、QOLとの関係は第1主成分が負の相関関係であり、第2主成分が正の相関を示した。またクラスター分析によって4つに集積することが確認された。また14項目の得点は重回帰分析の結果、家族の概念はQOL・全体健康観に決定係数0.157の回帰式が成立し、一人暮らしの患者のQOLをある程度予測可能な用具として活用可能なことが示された。

【審査結果の要旨】

療養行動をサポートする必要の高い慢性疾患患者の看護において、一人暮らしの患者のケアは困難とされている。これまで、一人暮らしの患者に対しては、家族はないものとして位置づけられてきた。しかし本研究は、実際には同居していない家族を概念として“家族”と位置づけていること、それがセルフケアやサポート、QOLに影響することを明らかにした。この結果は、今後ますます増加を予測される独居の慢性疾患患者のケアに新たな視点を提示したといえ、今後の慢性疾患看護の教育・研究において活用可能であり独創的である。公開審査における質疑においてもその応答は論理的かつ適切であった。以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士(保健学)の学位を授与するに値すると評価する。